

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク!



赤い羽根共同募金



福祉ちば

2018
11

NOVEMBER

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.180



特集

医療的ケア児への支援の現状と課題

地域の福祉活動

[市原市]市津地区社会福祉協議会

エールちば

市川手をつなぐ親の会 キャラバン隊「空」

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み

社会福祉法人 八千代美香会

県社協ニュース

ねんりんピック富山 2018

福祉人材関連情報 / やりがいいきがい はたらきがい

佑啓会・支援員の巻

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



ブレイメン習志野外観



社会福祉法人 八千代美香会

主な事業

- 特別養護老人ホーム(3)
- グループホーム(2)
- サービス付き高齢者向け住宅
- 保育園(2)
- こども園
- 地域交流プラザ

法人本部／八千代市村上641 特別養護老人ホーム美香苑
お問い合わせ TEL.047-482-8670
HP <http://www.bikou.net/>



左から綱島法人本部長、大岩副施設長

●ブレイメン型地域社会をめざそう

昭和63年に設立した社会福祉法人八千代美香会は、八千代市、千葉市若葉区、船橋市で特別養護老人ホームを運営し、八千代市と習志野市で保育園、子ども園を運営しています。高齢者福祉と児童福祉の分野で幅広い事業を展開するなか、平成21年には地域交流プラザ「ブレイメン習志野」を開設しました。

この施設は、前知事の堂本暁子氏が提唱した「ブレイメン型地域社会づくりモデル事業」として、県が所有する習志野市内の土地を活用して整備されました。ロバ、犬、猫、鶏が力を合わせて生きていくというグリム童話「ブレイメンの音楽隊」にちなみ、児童、障がい者、高齢者を含む地域住民が支えあって住み続けられる地域をめざそうという考えが込められています。

運営団体を公募した結果、同法人が選定され、地域住民の幅広いニーズを詰め込んだ3階建ての施設が完成しました。

●生活困窮の親子も気兼ねなく参加

ブレイメン習志野には、同法人が運営するデイサービス、ショートステイ、リハビリスタジオ、居宅介護支援センター、地域包括支援センター、多目的ホールなどのほか、別法人が運営する保育施設、市のサービス機関であるヘルスステーション（地域保健活動の拠点）などが入居しています。

レストランも同法人の運営で、毎日500円ランチを提供。近隣に住む一人暮らしの高齢者を中心に大勢の利用客が訪れます。また、同法人では今年10月から別地区で、「朝カフェ」も始め、ますます地域の憩い



参加者の笑顔で職員のモチベーションも高まります



朝カフェ

の場が広がっています。

このレストランで、平成28年から子ども食堂がスタートしました。月1回、金曜の夕食を幼児100円、小中学生200円で提供しています。地域の子どものみならず誰でも利用できる形式で、毎回50～60食があるという間に完売してしまいます。

「子ども食堂は本来、支援が必要な子どもを対象としたサービスですが、あえて間口を広げました。地域の子どものみならず、生活に困っている親子も気兼ねなく参加されています」と、ブレイメン習志野の副施設長、大岩優子さんは話します。食材については、地元住民から

提供いただくこともあったり、また担い手についても、いつもランチを食べに来ていただく高齢者などにボランティアとして協力いただいています。

●職員の「やりたい！」から始まる

ブレイメン習志野の地域包括支援センターでは、平成26年から介護予防を目的にした「ブレイメンのラジオ体操」を開催しています。施設に隣接した公園で週2回実施し、近隣の高齢者30名ほどが参加していますが、仲間づくりにもつながっているとのこと。法人本部のある八千代市でもラジオ体操の取り組みが始まりました。

法人の常務理事・法人本部長の綱島由美子さんは、八千代美香会の公益的な事業の特徴について、トップダウンではなく、現場の職員の『やってみたい』という思いからスタートし、施設長など管理者も協力しながらみんなで、形にしていることだと指摘。だからこそ職員のモチベーションが高く、長く継続できるのではないでしょう。

今後の取り組みについて綱島常務理事は「当法人には高齢者福祉と児童福祉という2本の柱があるので、子どもと高齢者を結び付けるような公益的な事業を立ち上げて、地域に貢献できればと考えています」と抱負を語ってくれました。



ラジオ体操